

I. 一般目標 (General Instructional Objective)

『腎臓内科医というgeneralist』を目標とする。世界的に増加し続ける慢性腎臓病(CKD: Chronic Kidney Disease)や、急性腎障害、腎炎・ネフローゼ症候群、電解質異常、加えて循環器疾患・高血圧・糖尿病・膠原病・血液疾患といった全身性疾患の診断・治療に関する臨床的な知識と技術の修得に努め、何よりも地域医療に貢献できる内科医を目指す。

II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

① 基本的診療法を修得

- 患者・患者家族との信頼関係、病歴聴取
- 頭の方からつま先まで全身の診察
- 病態に応じた患者教育、治療選択(血液透析、腹膜透析、腎移植)
- 主要疾患・合併症に対するアセスメント

② 下記の諸検査方法を修得・介助ができ、それを評価する

- 血液検査、検尿、各種検体のグラム染色
(尿定性・沈査、グラム染色は病棟で標本を作製・診断します)
- 胸腹部単純X線写真
- 腎臓の形態、腎動脈・シャント血管の狭窄等を超音波検査や血管造影で評価
- 腎・尿路系CT・MRI、腎臓核医学(レノグラム・Gaシンチ)
- 腎生検

③ 一般内科・腎臓疾患の基本的治療修得

- 患者教育:腎機能の変化に応じた生活指導、食事指導、運動療法
- 薬物療法:腎機能の変化に応じた降圧薬・利尿薬の適正使用。ネフローゼ症候群、血管炎等に対して行う副腎皮質ステロイド療法・免疫抑制療法などの特殊治療薬、生活習慣病に対応する薬剤、抗凝固・抗血小板薬の選択・調整。
- 患者の状態に合わせた電解質補正・輸液・栄養管理(自分で輸液組成を計画)
- 患者背景を踏まえ、介護・医療保険を利用し地域と連携した在宅医療の知識を身につける。

III. 方略 (Learning Strategies)

指導医とともに病棟・外来での診療トレーニング、学会参加(スライド作製、発表、症例報告など)、カンファレンスへの参加など

IV. 経験できる疾患・手術など

《疾患》

高血圧、電解質異常、急性・慢性腎不全、一次性糸球体疾患(微小変化型、IgA腎症、巣状分節性病変等)・全身性疾患に伴う糸球体腎炎(ループス腎炎、紫斑病性腎炎等)、血管系疾患における糸球体病変(顕微鏡的多発血管炎、溶血性尿毒症候群、血栓性血小板減少性紫斑病等)、骨髄腫腎、糖尿病性腎症、尿管間質疾患、多発性嚢胞腎、腎移植のマネジメント。その他脳・循環器疾患、糖尿病、膠原病等。血液・腹膜透析アクセストラブル全般。

《手技・手術》

血液透析、腹膜透析、ECUM(体外限外濾過法)、血漿交換、LCAP(白血球除去療法)、LDLアフェレーシス、末梢幹細胞採取。内シャント造設術、動脈表在化術、シャント瘤切除術、人工血管植え込み術、腹膜透析カテーテル留置術、長期間植え込み型カテーテル留置術。

V. 評価 (Evaluation)

退院サマリー、手術記事、症例レポート・minimumEPOCによる自己評価・指導医評価。指導医・看護師などによる形式的評価。

VI. 指導者と研修施設

- 診療部長 深水 圭
- 指導責任者 中山 陽介
- 指導医 中山 陽介、甲斐田 裕介
- 研修施設 久留米大学病院

VII. 週間予定

月	8:30	病棟・外来・腎センター業務
火	8:30	病棟・外来・腎センター業務
	15:00	腹膜透析回診
水	8:00	抄読会
	8:30	新患紹介・教授回診
	AM/PM	シャントPTA(経皮的血管形成術)
木	8:00	腎生検カンファ
	9:00	病棟・外来・腎センター業務
	PM	透析アクセス関連手術
	17:00	透析カンファ
金	8:30	病棟・外来・腎センター業務
	AM/PM	透析アクセス関連手術
土	8:30	病棟・腎センター業務

